

人体に関係のある部首

欠 欠 見 見 心 心 肉 月
骨 骨 月 夕

欠は、口を大きく開いた人の形を表わしたものです。だから、“あくび”という名があります。部首としては、“口を開く”“あくびする”という意味に使われます。

次は、二と欠との会意形声字で、音は二です。二番めで結構、とだらけた気持であくびしている状態を表わした字です。“つぎ”という意味になります。次官。次男。

欧は、区(嘔)と欠との形声字。“おうおうと言って、食べた物を口から吐き出す”のが本義。「欧州」「欧米」は仮借による用法です。「嘔」と同音同義。

吹は、“口を開いて、口から息をふき出す”という意味の会意字。音は炊。吹奏。

飲は、“口を開いて、食べ物をのみこむ”という意味の会意字。音は引。飲酒。

歌は、“口を開いて、よい声(可)を出す”という意味の会意形声字。歌唱。

見 見

見は、目と人との会意字で、人が目で“みる”という意味の字です。見学。

視は、祭祀の意味の示と見との会意形声字で、音は示。儀式に手落ちのないように、“注意深くみる”という意味の字です。視察。注視。看視。

覚は、学の意味の見と見との会意形声字で音は覚(カク)。見てよく学べば“わかる”し、また“おぼえる”こともできます。「自覚」は“わかる”“さとる”の意味です。

親は、辛(シ)と木と見との会意形声字で、親が本字。木は人の住む所なら、どこでも見ることのできるものです。“見なれたもの”という意味の字で、“したい”が本義です。人間関係で、最も見慣れており、最も親しいのは、“おや”です。“おや”は転注。親愛。親族。

覧は、監の意味の 監と見との会意形声字です。“高い所から見おろす”“身分の高い人がごらんになる”という意味の字です。天覧。御覧。遊覧。

規は、コンパスの象形の夫(夫)と見との形声字で、“円をえがく器具”のことです。見の音は“き”と“えん”とに分けることができます。見＝規＋円。

心

心は、心臓の象形で、“心臓”が本義。転じて“精神作用をつかさどるこころ”という意味に使われます。心配。心理。

念は、今の心という意味の会意字です。現在、ああしたい、こうしたいと考えている心ということです。念願。専念。雑念。

志は、志が古体です。志は之(行く)の古体で、“活動状態にはいった心”を志と言うのです。“こころざし”。闘志。大志。

忠は、“ま心”という意味の字で、中(チュウ)と心の会意形声字です。忠実。忠誠。

思は、心で、心と心の会意形声字です。心は脳の本字です。脳

と心臓とが、人間の思考活動をつかさどるということで、組み立てられたものです。思想。意志。

忍は、心を刃物で突き刺されるような思いにも“たえしのぶ”という意味の字で、刃(刃)と心との会意形声字。

忘は、“心をうしなう”という意味の字で“わすれる”ことを表わしています。亡(失う)と心との会意形声字。忘恩。忘年。

忙は、“忘れるほどいそがしい”という意味の字です。忘と同じく、亡(失)と心との会意形声字です。多忙。忙殺。

性は、“生まれつきの心”という意味の字で、「天性」「本性」「性格」などと使われる字です。生と心との会意形声字。

恥は、耳から入って心に痛く感ずるという意味で、“はずかしい”ことを表わしました。音は耳。恥辱。無恥厚顔。

悟は、吾と心との会意形声字“吾を正しく心に写し出す”ことです。肉眼が自己の肉体を見ることができにくいように、自己の心はわかりにくいもの。その心をはっきりと明らかにするのが“さとり”です。悟得。覚悟。

患は、**𠂔**(カン) (くしで貫く象形)と心との会意形声字で、“心を突き刺されるような思い”という意味の字です。“うれしい”。転じて“病気にかかる”ことに使われます。内憂外患。患者。串は、食べ物にくしをとおすこと、貫はお金(貝)の穴にひもをとおすこと。言葉としてはどちらも同じカンです。

惜は、“昔を思う心”という意味の、昔^{セキ}と心との会意形声字です。過ぎし昔のことはなつかしく、美しいもの。“なつかしむ”“いとおしむ”ことです。愛惜。

想は“よく見る”意味の相^{ソウ}と心との会意形声字です。実際の様子を眼前に見るように、心にありありと“思いえがく”ことです。想像。回想。思想。感想。

愁は、“秋の心”という意味の、秋^{シュウ}と心との会意形声字です。「枯れ枝に鳥のとまりけり秋の暮」何とはなしに、物のあわれを感じるのが“秋の心”です。“うれしい”。哀愁。旅愁。

意は、声音の意味の音^{イン}と心との会意形声字で、音は、音^{イン}がつまってイ。心に思っていることが、「よしやろう」という声になって出る状態

になった心を意と言います。意志。決意。意見。精神活動の本体が「心」であり、刺戟に対して心が活動し始める状態が「志」であり、判断がついて行動に移ろうとする状態まで高められたのが「意」です。

慎は、“心に悪や油断が生じないようにつつしむ”という意味の、真^{ジン}と心との会意形声字です。言葉をつつしむのが謹、心をつつしむのが慎です。謹慎。慎重。

慈は、草の滋^シる意味の茲^ジと心との会意形声字で、草に水をやり、育て“いづくしむ”心を言います。「慈愛の心が草木にまで及ぶ」というのが慈の本義です。慈悲。慈善。

慣は、物事をやり抜きとおす意味の貫^{カン}と心との会意形声字で、“一貫した行為によって生ずるなれ”を表わした字です。慣習。慣例。慣性。慣用。

憶は、おもいう意味の意^イにさらに心を加えて、“長く思う”意味を表わした会意形声字です。記憶^{キオク}。追憶^{ツイオク}。音のオクは、oku ではなくて ok、つまり、今の表記で言えば、オッであって、熟語の組み合わせ方によっては ong になり、on に近いのです。音は漢音がイン、呉音がオンで

すが、イ→イン→イク、オ→オン→オクで、これらは発音の現実ではほとんど同じに聞こえるのです。「意^イ」と「憶^{オク}」とではまるで、緑がないように見えますが、現実で通じ合う音なのです。

憧は、いつも心が外に向かっている、他を“あこがれ”ている兒童の心^{ドウ}を表わした、童と心との会意形声字です。憧憬。

惑は、“もしかしたら”という意味の或^{ワク}と心との会意形声字です。“疑いを抱く”という意味の字で“まどう”こと。惑乱。迷惑。誘惑。

惰は、墮(地に落ちる)の意味の有^{ドウ}と心との会意形声字で、“墮落した心^{ドウ}”という意味の字です。“怠ける”“おこたる”こと。怠惰。惰性(現状を打開して向上しようという気持ちに対して、現状維持の気持ちのこと)。

悩は、悩^{ノウ}と心との会意形声字です。悩は頭脳^{ノウ}の象形の囟^{ノウ}に髪の毛を加えた形です。心や頭を使うということで、“なやむ”意味を表わしています。苦悩。煩惱。

肉 月

肉は、獣肉のきれの象形です。“食肉”が本義ですが、部首として

は、多く、肉体の名称に使われています。

胃は、胃^イで、胃^イは、胃に食べ物が入っている象形です。

肩は、肩^{ケン}の象形である尸^{ケン}と肉^{ニク}の会意字。肩を軸として腕が戸のように動く意味にも取れます。

腕は、宛^{ワン}曲の意味の宛^{ワン}と肉^{ニク}との会意形声字で、曲げたり伸ばしたりできる“うで”を表わしました。音は宛の変化したワン。

肝は、幹^{カン}の意味の干^{カン}と肉^{ニク}との会意形声字で、“根幹にあたるような大事な臓器”という意味の字です。

「肝腎」は、肝臓と腎臓のことで、どちらも重要な臓器なので、“重要”という意味に使われます。

胸は、胸^{キョウ}と肉^{ニク}との会意形声字。胸^{キョウ}は、包む意味の冫(第二章の包参照)と凶^{キョウ}の形声字で“心臓や肺を包むところ”のむねを表わしたものです。

脈は、川^ハの分派する形を表わした脈^ハ(派^ハの本字)と肉^{ニク}の会意形声字で、“血液が分派して流れる血管”のことです。動脈。静脈。■の音は、漢音がハ、呉音がマ。これがつまって発音される場合、昔は

これをハク、マクと表記したもので、haku、maku と読んだものではありません。ミヤクはマクのなまりです。

胴は、筒の意味の^{ツツ}同と肉との^{ドウ}会意形声字で、“肉体の筒状をしたところ”という意味の字です。胴体。

胎は、“始まる”の意味の^{タイ}台と肉との^{ニク}会意形声字で、“母体の中に新しい生命が始まる”ことを表わした字です。「妊娠」と同義です。転じて「子宮」の意味に使われます。母胎。胎内。si は ti に最も変化しやすい音です。ti はタイとも発音されます。始と胎とはもとは同音なのです。^シ詩と^{タイ}待との関係と同じです。

肺は、音の意味の^{ハイ}市(市とは異字、沛然の^{ツクリ}旁と同字)と肉との^{ニク}会意形声字です。音(第一章の音を参照)の“二つに分ける”という意味によって“左右二つに分かれている臓器”を表わしたものです。

骨

骨は、ほねの象形^{ハネ}と肉との^{ニク}会意形声字で、“筋肉の付いたほね”が本義の字。音は^カ骨の変化したコツ。「骨格」、「骨子」は“ほね”ぐみの意味で“輪郭”“要点”という意味に使われます。

髓は、付随の意味の^{ズイ}道と骨との^{ニク}会意形声字で、“骨に付随している、骨の中に充滿している脂肪状の物質”のこと。“骨の内部”。脊髓。転じて、“物事を中心となる大切な所”という意味に使われます、心(神)髓。精髓。

歹

歹は、^{ニク}肉が^{ハネ}くずれた^{ハネ}です。肉体が死んで骨がばらばらになった状態を表わした字です。「一夕扁」と言います。“死”に関する意味を特った部首です。

死は、人の倒れて死んだ形の^シ匕と^{ニク}歹との^{ニク}会意字で、“人が死んで骨となる”意味の字です。

歿は、水中に隠れる意味の^{ボツ}没と^{ニク}歹との^{ニク}会意形声字で、“死ぬ”ことを表わしています。死歿。

殊は、血を意味する^{シュ}朱(あけ＝赤)と^{ニク}歹との^{ニク}会意形声字で、“朱に染まって死ぬ”という意味の字で、“斬刑”が本義です。首と胴体とが“切り離される”刑なので、“ことにする”という意味から転じて“ことなる”“ことに(特別に)”という用法が生まれました。特殊。殊勲。

殉は、順の意味の^{ジュン}旬と歹との会意形声字で、“人の死に順って死ぬ”ことです。殉国。殉死。

殖は、木をふやす意味の“植”にならって“人をふやす”意味の字として作られたもの。歹と植との会意形声字。殖民。生殖。転じて、動物や財貨をふやすのにも用います。繁殖。貨殖。殖産。

列は、骨から肉を“切り離す”意味の会意字です。“わける”が本義で、転じて“ならべる”という意味に使われます。行列。整列。